

5. トランジットセンターに求められる機能と施設の考え方

トランジットセンターは導入されるLRTを中心として、様々な交通機関と連携することにより、市内の利便性の高い公共交通ネットワークを形成するうえで重要な役割を担う。

■様々な交通機関の連携を可能に ～快適な乗り換え動線の確保・乗り換え抵抗の低減～

- ・バス、自転車歩行者、自家用車、タクシー等様々な交通機関に対応した施設整備を図る。
- ・各交通機関とLRTとの快適な乗り換え動線を確保し、乗り換え抵抗を低減する。
- ・特に宇都宮市の場合、現況においてバスを中心とした公共交通サービスが提供されており、市内の公共交通ネットワークの充実、強化を図る観点から、バスとの連携は重要である。

■いつでも・誰にでも快適で便利な施設に ～ユニバーサルデザイン化～

- ・段差解消等のバリアフリー化や、わかりやすい施設配置・案内誘導等により、誰にでも快適で便利な施設整備を図る。
- ・天候等に関わらず、いつでも快適に利用できる施設とする。

■人々が集う拠点の形成

- ・トランジットセンターには、乗り換え利用者を含め多くの人々が集まることとなり、今後のまちづくりに資する地域の拠点としての機能が期待される。

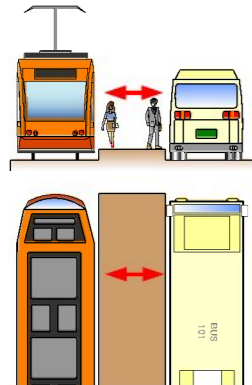
ここでは、標準的なトランジットセンターに対する考えを整理するものとし、個別の条件が多い鉄道との結節については別途検討する。

(1) 様々な交通機関との連携(乗換え機能)

① バスとの連携

- ・他の交通手段との乗り継ぎにおいては、バスとの乗り継ぎを最優先するものとし、原則、「対面式での乗換え」とする。
- ・特に、郊外部等で、バスからLRTへの乗換えが朝方の短時間に集中するものと考えられ、バス降車場からLRTへの乗換え動線の円滑化を最優先として考える。
- ・また、乗換え動線上に上屋を設置し雨天時の快適性確保を図る、バス情報の案内を充実させる等、バスとの乗換え利便性向上を図る。

<対面式での乗換え>



廿日市市役所前駅(広島電鉄)
<対面式での乗換え事例>



三郷中央駅(つくばエクスプレス)
<乗換え動線上でのバス情報案内>

② 自転車との連携

- ・自転車との連携に関しては、その周辺の土地利用などを踏まえ、適切な駐輪場規模の確保を図る。
- ・平成13年度に実施したアンケート※においても、C&R施設に対するニーズとして「屋根があり雨に濡れない」という点が挙げられている。こうした雨天時への対応を考慮し、必要に応じて上屋の設置や雨具の脱衣所等の設置を図る。



岩瀬浜駅(富山ライトレール)

<駐輪場の設置事例>



三郷中央駅(つくばエクスプレス)

<雨具脱衣所>

③ 自動車との連携

<キス&ライド>

- ・周辺道路の自動車交通に影響を与えないように、キス&ライド用の専用バース(乗降場)を設けるものとする。
- ・一般車用に加えて、障害者用バースの設置を図る。



岩瀬浜駅(富山ライトレール)



岩瀬浜駅(富山ライトレール)

<自動車バースの設置事例>

<パーク&ライド>

- ・トランジットセンター内の空間的余裕を活用して、パーク&ライド駐車場を確保する。
- ・パーク&ライド駐車場は周辺地域の特性、利用状況等に応じて適正な規模の確保が必要である。
- ・トランジットセンター内での確保で不足する部分については、沿線ショッピングセンター等との共有、車両基地用地の活用等を含めて検討する。

<タクシーとの連携>

- ・タクシー利用者に対して、タクシー乗降場を設けるものとする。
- ・また、客待ちタクシーのためにタクシープールを確保する。

(2) 快適で利便性の高い施設の整備

- ・段差解消等のバリアフリー化を図るとともに、必要な箇所にはスロープ、手すりの設置等を行う。
- ・平成13年度に実施したアンケート※において、C&R、P&R施設に対して「防犯」「トイレ」等のニーズが高い。
- ・十分な照明の設置による防犯性の向上や、トイレの設置等快適で利便性の高い施設に向けた整備をすることが必要である。

(3) 拠点の形成

- ・トランジットセンターは、その周辺地域を代表する交通拠点であり、まちの情報の発信拠点として案内板等の拡充を図ることが重要である。
- ・また、シンボリック、個性的なデザイン等によりランドマーク機能を持つことも期待される。



仏・ストラスブル



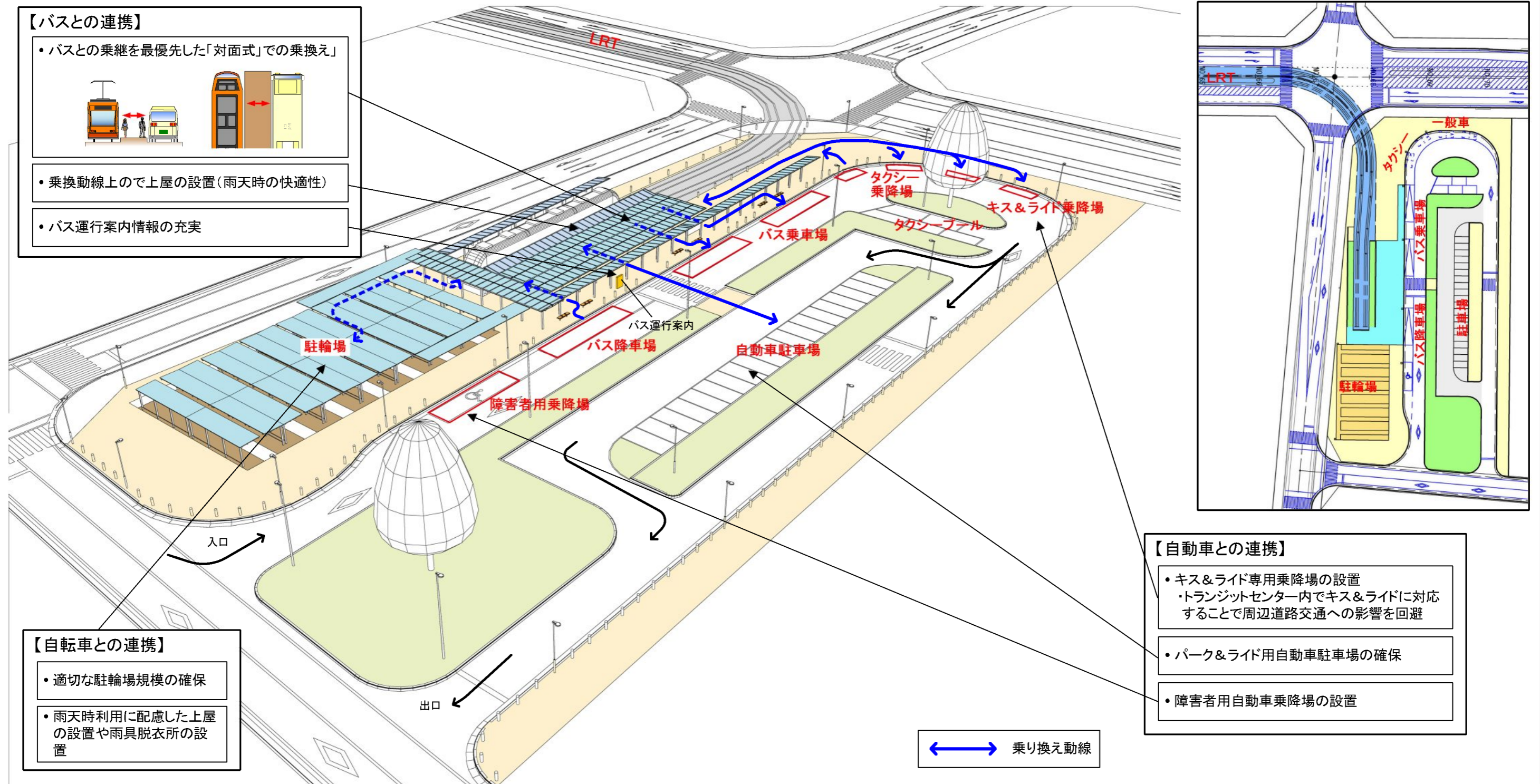
ポルトガル・ポルト

<シンボリック・個性的な駅施設デザイン>

6. トランジットセンターの整備イメージ

- ここでは、トランジットセンターの整備一例（イメージ）を示す。
- バス、自転車、自動車との各結節施設を有した施設とするともに、乗換え利便性を踏まえて、歩道側へ停留場を設置することとしている。
- なお、自動車の交通処理を考慮して、バスや自動車の進入路を交差点から一定離れた箇所に設けるものとしている。

※ ここでは施設の利用イメージを説明することを主眼としており、(シボルの、个性的)デザイン、色彩については検討していない。また、バス乗降場、自動車駐車場の数についても想定である。



トランジットセンター全体概要図



視点2：自転車からLRT乗換え時



視点1：バス、タクシー降車場等からLRT乗換え時



視点3：自家用駐車場からLRT乗換え時



※乗換えイメージの創出を目的としたものであり、当該施設の色彩およびデザイン等は、決定したものではない。